

決算説明会

2020年3月期 第2四半期

ミネベアミツミ株式会社

2019年11月7日

1. 業績の説明

2. 事業概況と経営戦略

業績の説明

専務執行役員 吉田 勝彦

吉田です。

本日は、私より2020年3月期第2四半期の連結実績についてご説明し、その後、代表取締役会長兼社長の貝沼より事業概況を含む本日のポイントをご説明します。

**2Q売上高は四半期として過去最高。
ただし、マクロ経済減速と為替の影響を強く受ける。**

(百万円)	2019年3月期 2Q	2020年3月期 1Q	2020年3月期 2Q	前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
売上高	236,330	204,425	279,473	+18.3%	+36.7%
営業利益	19,624	3,663	19,372	-1.3%	5.3倍
税引前利益	20,106	3,680	19,381	-3.6%	5.3倍
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	15,970	2,297	13,916	-12.9%	6.1倍
基本的1株当たり 四半期利益 (円)	38.04	5.53	33.52	-11.9%	6.1倍

為替レート	2019年3月期 2Q	2020年3月期 1Q	2020年3月期 2Q
US\$	110.87円	110.73円	107.63円
ユーロ	129.13円	123.56円	120.44円
タイバーツ	3.35円	3.47円	3.50円
人民元	16.37円	16.28円	15.44円

2019/11/7

4

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

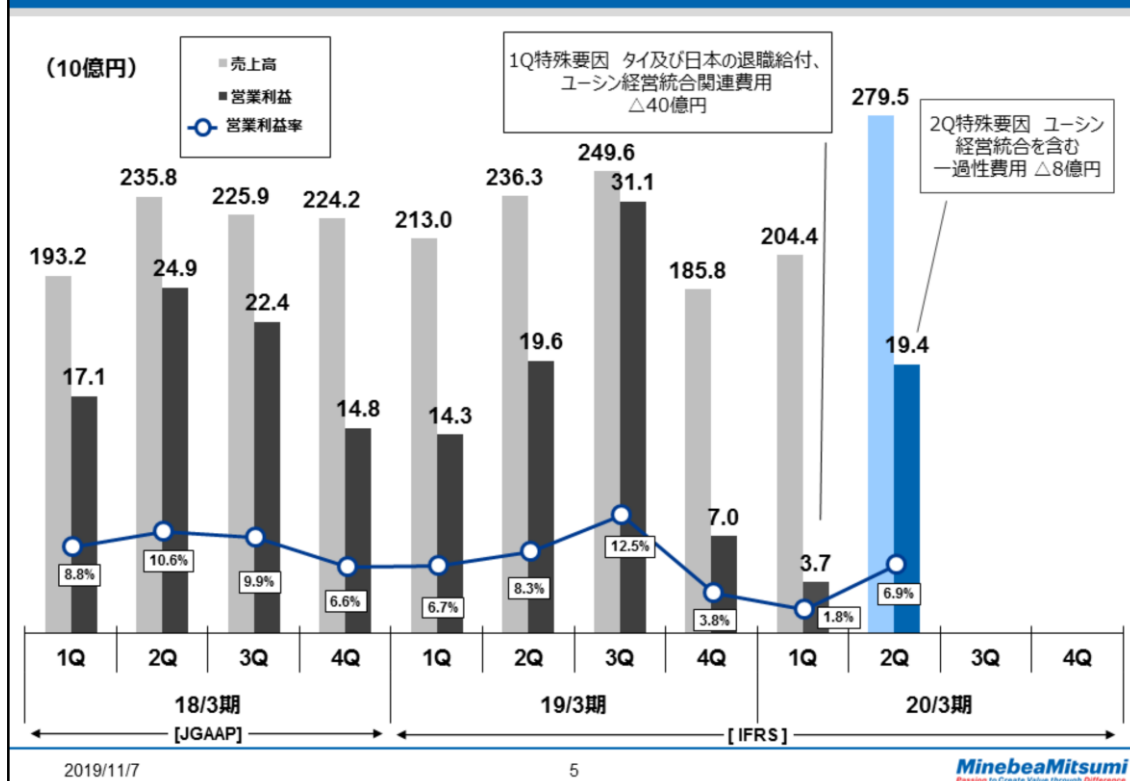
2020年3月期第2四半期の連結業績は、マクロ経済減速と為替の影響を強く受けたものの、売上高は、前年同期比で18.3%増、前四半期比で36.7%増の2,794億7,300万円と、四半期として過去最高となりました。

営業利益は前年同期比で1.3%減、前四半期比で5.3倍の193億7,200万円、親会社の所有者に帰属する四半期利益は、前年同期比で12.9%減、前四半期比で6.1倍の139億1,600万円となりました。

為替の影響は、売上高で前四半期比マイナス61億円、前年同期比マイナス75億円、営業利益で前四半期比マイナス18億円、前年同期比マイナス30億円、との推計です。

売上高、営業利益、営業利益率

18/3期はJGAAP



売上高、営業利益、営業利益率の四半期ごとの推移です。

左側の棒グラフが売上高を、右側の棒グラフが営業利益を、折れ線グラフが営業利益率を示しています。

第2四半期の営業利益率は6.9%となりました。これは前年同期比では1.4ポイント低下、前四半期比では5.1ポイントの上昇となりました。

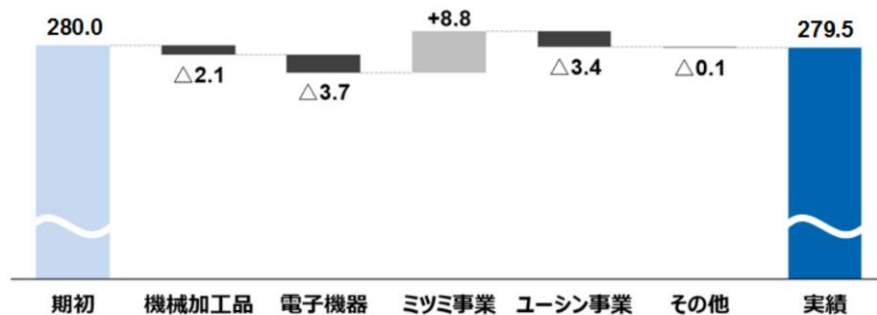
ただし、第2四半期には特殊要因としてユーシン経営統合関連を含む一過性費用約8億円が含まれており、これを除いた場合の営業利益率は7.2%となります。

なお、これまでの発表数値のリファレンスのため、2018年3月期の実績値をJGAAPにて表示、ご説明しています。この後も同様となりますのでご注意ください。

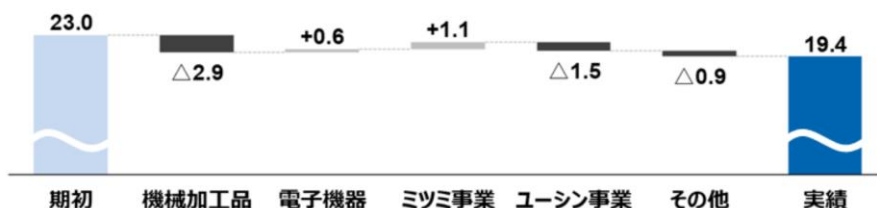
2Q実績 期初予想からの差異

(10億円)

売上高



営業利益



2019/11/7

6

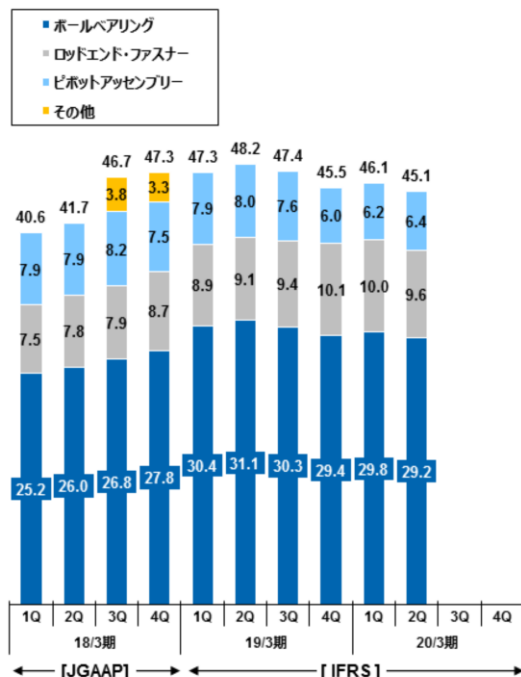
MinebeaMitsumi
Precision to Create Value through Difference

これは、第2四半期の売上高、営業利益の実績につきまして、5月の決算発表時の業績予想からの差異についてセグメント別に示したものになります。

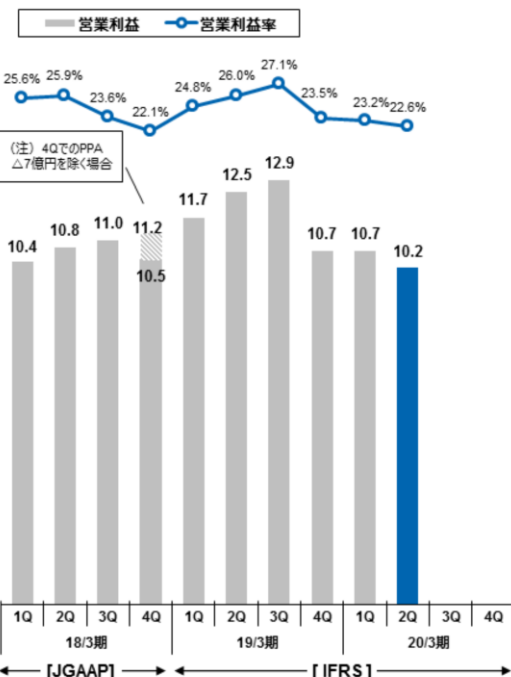
売上高においては、機械加工品事業セグメントは、ボールベアリングを中心にマクロ経済減速の影響を受け、想定を下回りました。電子機器事業はモーター、センシングデバイスを中心に想定を下回りました。ミツミ事業においては、主に機構部品の出荷の増加により、想定を上回る結果となりました。ユーシン事業においては、中国を中心とした自動車市場減速の影響により稼働が大幅に低下し、想定を下回りました。

営業利益においては、機械加工品事業セグメントにおいて、主にファンモーター向けボールベアリングの需要回復の遅れによる販売数量の伸び悩みにより想定を下回りました。電子機器事業は概ね想定通りとなりました。ミツミ事業においては、売上の増加に伴い想定を上回りました。一方、ユーシン事業においては売上減少に伴い想定を下回りました。

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



2019/11/7

7

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

次に、各事業セグメントの状況について、まず機械加工品事業セグメントについてご説明します。

左側のグラフが四半期ごとの売上高の推移を、右側のグラフは棒グラフが営業利益、折れ線グラフが営業利益率を表しています。

第2四半期の売上高は451億円、前四半期から2%の減少となりました。

ボールベアリングの売上高は292億円、前四半期比で2%の減少となりました。ボールベアリングの数量ですが、外販数量は月平均で1億8,500万個となりました。ファンモーター向けの需要の回復は想定より遅れましたが、自動車向けは引き続き堅調に推移しました。

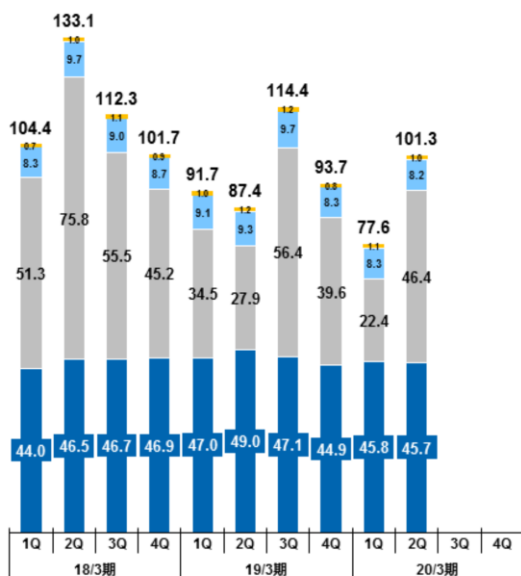
ロッドエンド・ファスナーの売上高は96億円となり、前四半期比で4%の減少でした。中・小型機を中心に、航空機向けのビジネスは堅調に推移しています。

ピボットアッセンブリーは64億円となり、前四半期比で2%の増加でした。当社シェアは80%超を維持しており、安定的に収益に貢献しています。

営業利益ですが、当四半期は102億円、営業利益率は22.6%となりました。営業利益は前四半期比5%の減少となり、営業利益率では0.6ポイントの低下となります。製品別では、ボールベアリング、ロッドエンド・ファスナー、ピボットアッセンブリーともに前四半期比で微減益となりました。

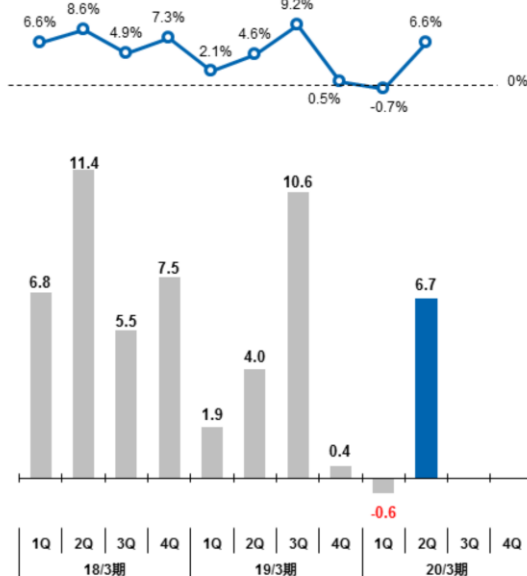
売上高 (10億円)

■ モーター ■ エレクトロデバイス ■ センシングデバイス ■ その他



営業利益 (10億円)

■ 営業利益 ● 営業利益率



2019/11/7

8

MinebeaMitsumi

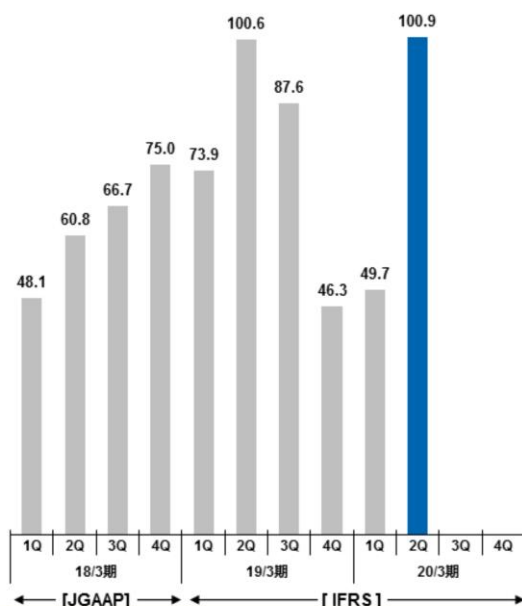
次に、電子機器事業セグメントについてご説明します。

売上高は1,013億円、前四半期比で30%増となりました。製品別では、モーターは前四半期並みの457億円となりました。エレクトロデバイスは、前四半期比で2.1倍の464億となりました。これは主に主要顧客向けのLEDバックライトの新製品が需要期を迎えたことによるものです。

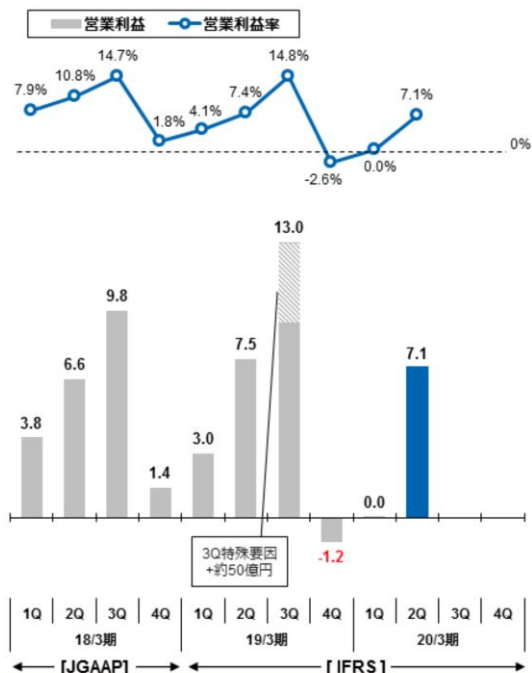
センシングデバイスの売上高は82億円となり、ほぼ前四半期並みでした。

営業利益は67億円、営業利益率は6.6%となりました。製品別では、エレクトロデバイスを中心に、すべての製品において前四半期比で増益となりました。

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



2019/11/7

9

MinebeaMitsumi
Precision to Create Value through Difference

次にミツミ事業セグメントについてご説明します。

売上高は、前四半期比2倍の1,009億円となりました。機構部品、光デバイスを中心にすべての製品において増収となっております。

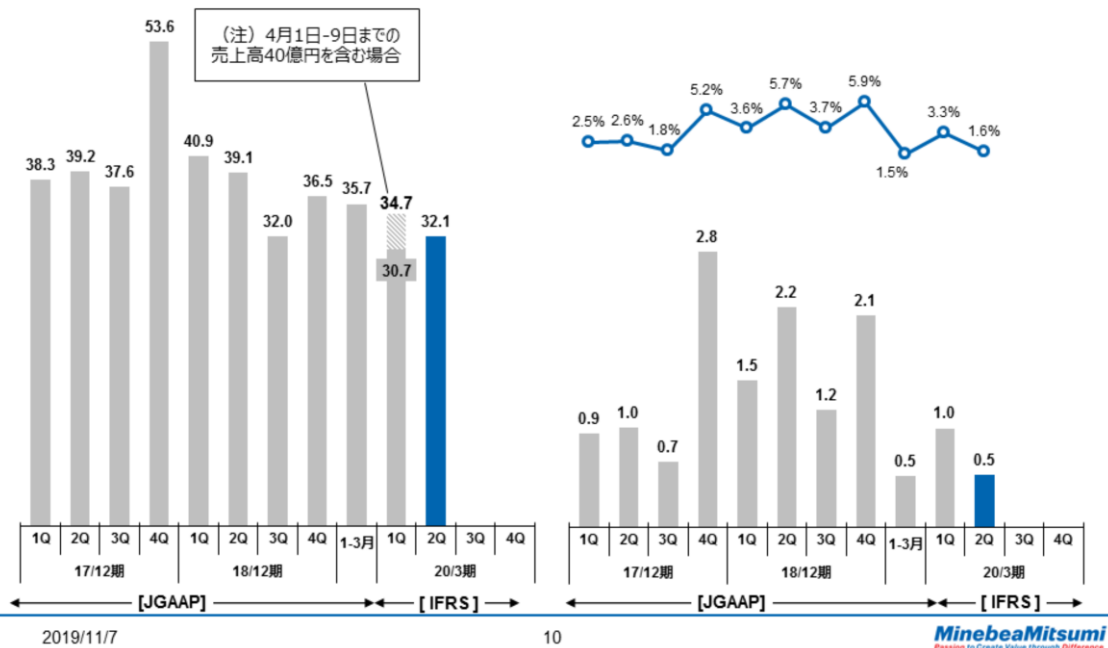
営業利益は71億円となり、営業利益率は7.1%と、前四半期比で売上高と同様の動きとなっております。

ユーシン事業セグメント

決算期変更に伴い17/12期4Qは4ヶ月決算
19/3までは経営統合前の参考値でJGAAP

売上高 (10億円)

営業利益 (10億円)



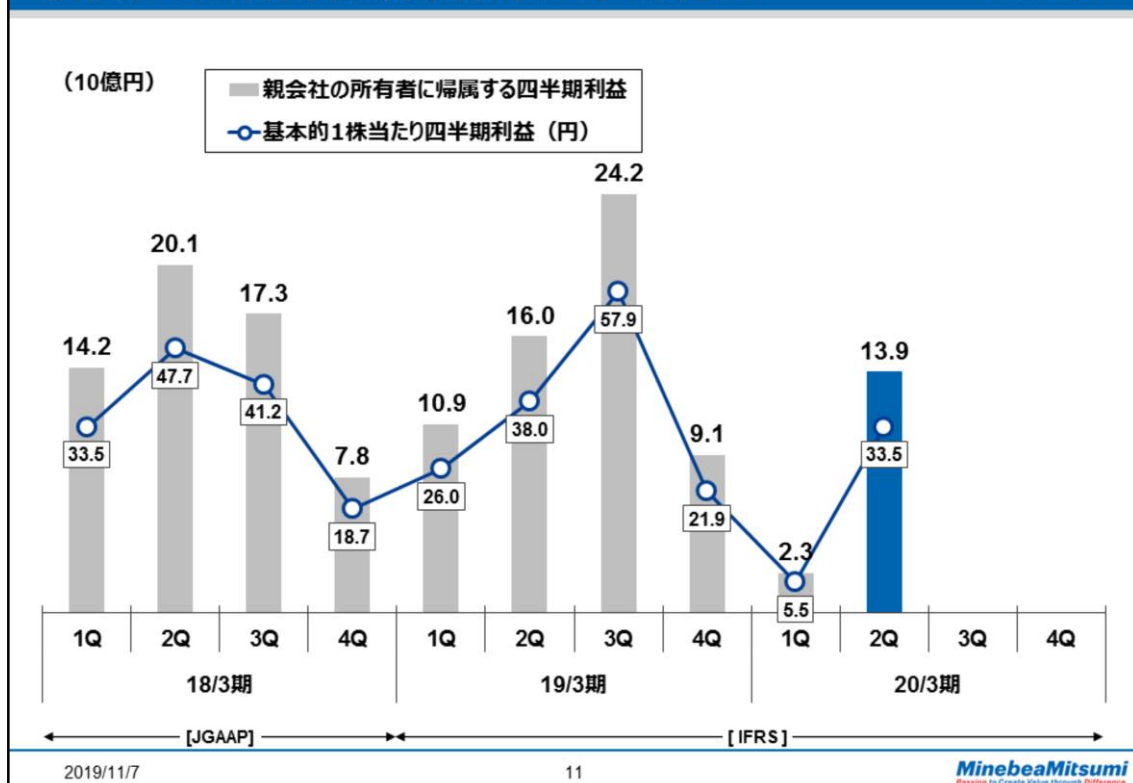
最後に、ユーシン事業セグメントについてご説明します。

売上高は321億円、統合前を含めた前四半期比で実質7%の減少となりました。これは、中国を中心にその他欧州等における自動車市場減速の影響により稼働が大幅に低下したことによります。なお、第2四半期には特殊要因としてユーシン経営統合関連費用および新製品立ち上げ費用等の一過性費用が約4億円が含まれています。通期としては、一過性費用は約10億円を見込んでいます。

営業利益は5億円、営業利益率は1.6%となりました。前四半期比では、営業利益は50%減、営業利益率は1.7ポイントの低下となりました。

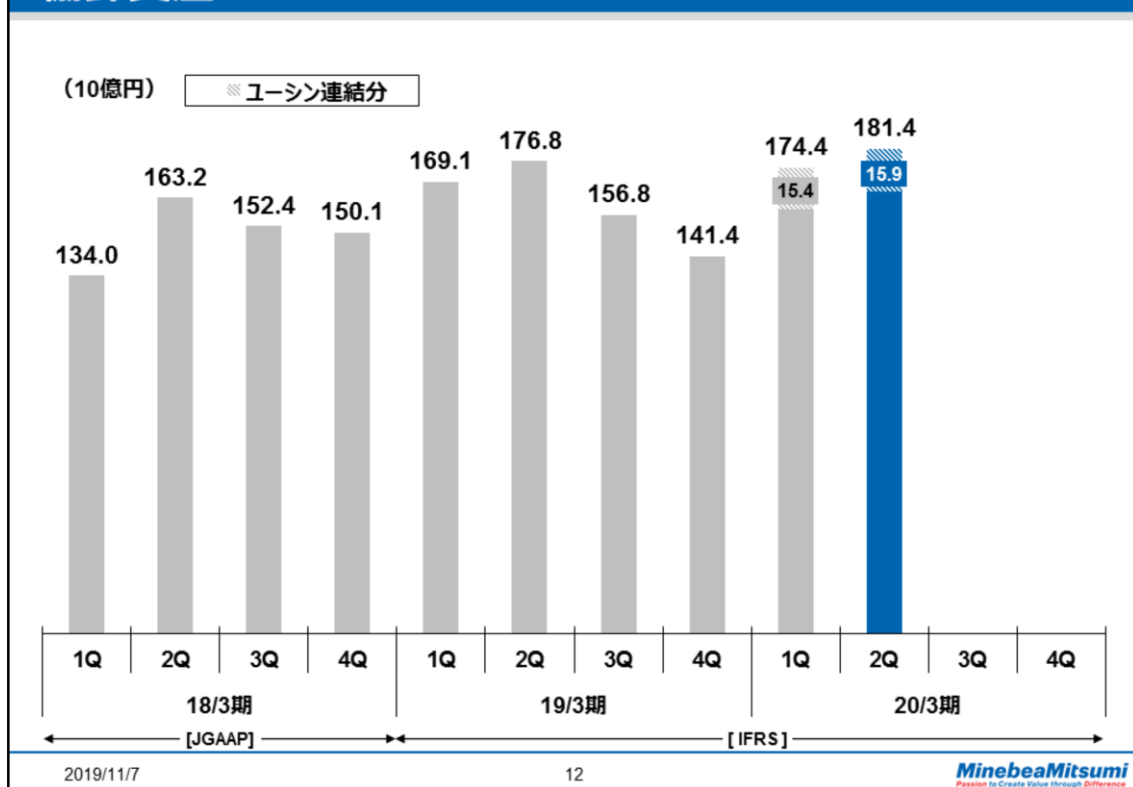
親会社の所有者に帰属する四半期利益

18/3期はJGAAP



このグラフは、親会社の所有者に帰属する四半期利益の推移を棒グラフで、1株当たり四半期利益の推移を折れ線グラフで表しています。

四半期利益は139億円、1株当たりでは33.5円となりました。

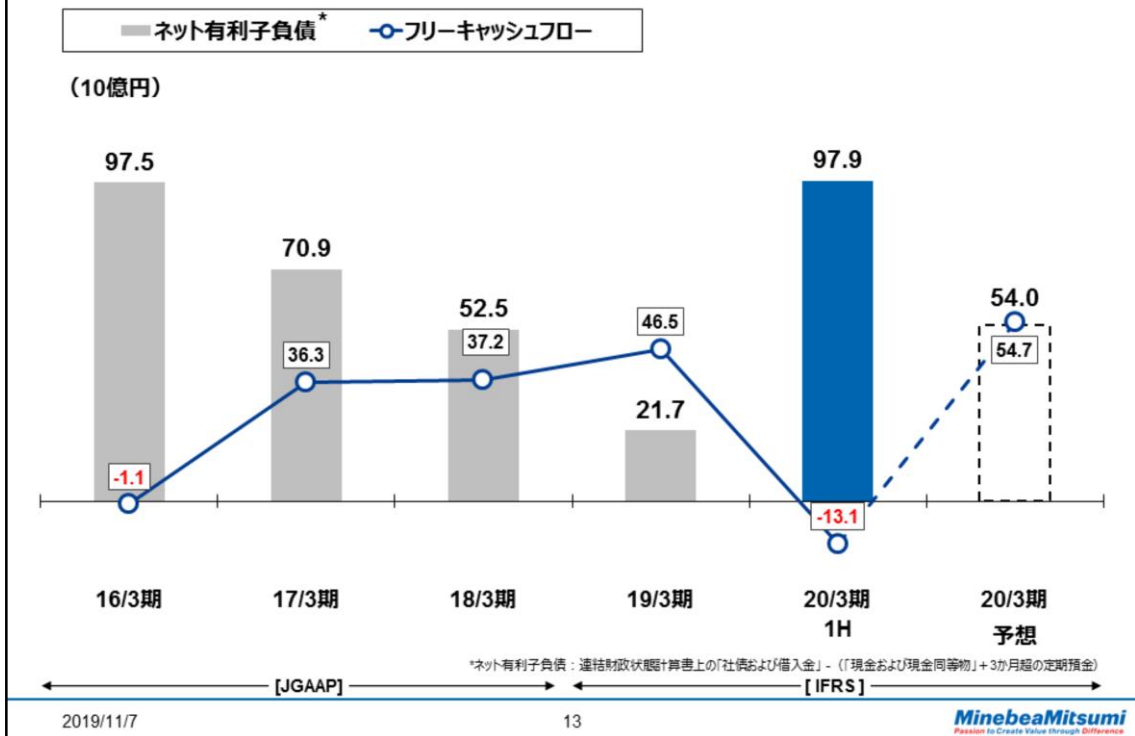


続きまして、棚卸資産の四半期ごとの推移です。

第2四半期末は1,814億円となり、3カ月前と比べると70億円の増加となりました。
 なお、ユーシンの連結に伴い、同社の在庫(159億円)が含まれています。

ネット有利子負債、フリーキャッシュフロー

18/3期以前はJGAAP



このグラフは、有利子負債総額から現預金を差し引いたネット有利子負債の推移を棒グラフで、フリーキャッシュフローの金額を折れ線グラフで表しています。

第2四半期末におけるネット有利子負債は979億円となり、2019年3月末から762億円増加しました。

通期下方修正も下期は前年比増益へ

[IFRS]

(百万円)	2019年3月期 通期	2020年3月期			
		上半期	下半期	通期	前期比
売上高	884,723	483,898	516,102	1,000,000	+13.0%
営業利益	72,033	23,035	43,965	67,000	-7.0%
税引前利益	71,321	23,061	42,939	66,000	-7.5%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	60,142	16,213	35,787	52,000	-13.5%
基本的1株当たり 当期利益 (円)	143.90	39.06	86.20	125.26	-13.0%

為替レート	2019年3月期 通期	2020年3月期 3Q-4Q想定
US\$	110.67円	108.00円
ユーロ	128.75円	120.00円
タイバーツ	3.42円	3.50円
人民元	16.52円	15.80円

2019/11/7

14

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

これは、今期2020年3月期の業績予想をまとめたものです。

上半期の実績はユーシンと機械加工品が想定を下回り、下半期は一部の製品において回復を見込んでいますが、貿易摩擦による市場の不透明感や為替動向、自動車の世界出荷台数の減速など世界経済の動向は引き続き不透明な状況にあります。このような状況を踏まえ、下半期及び通期の業績予想を修正しました。

為替レートは1ドル108円を想定しています。

[IFRS]

(百万円)	2019年3月期	2020年3月期			
	通期	上半期	下半期	通期	前期比
売上高	884,723	483,898	516,102	1,000,000	+13.0%
機械加工品	188,324	91,187	91,813	183,000	-2.8%
電子機器	387,293	178,919	216,081	395,000	+2.0%
ミツミ事業	308,423	150,578	139,422	290,000	-6.0%
ユーシン事業	-	62,792	68,208	131,000	-
その他	683	422	578	1,000	+46.4%
営業利益	72,033	23,035	43,965	67,000	-7.0%
機械加工品	47,750	20,907	25,093	46,000	-3.7%
電子機器	16,922	6,076	14,924	21,000	+24.1%
ミツミ事業	22,282	7,149	9,351	16,500	-25.9%
ユーシン事業	-	1,542	2,458	4,000	-
その他	△ 386	△ 694	△ 806	△ 1,500	3.9倍
調整額	△ 14,535	△ 11,945	△ 7,055	△ 19,000	+30.7%

2019/11/7

15

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

こちらは、各事業セグメント別の予想です。

セグメント別の業績予想につきましても、業績予想を修正しています。

以上で私からのご説明を終わります。

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

事業概況と経営戦略

Business Update & Management Strategy

2019年11月7日

代表取締役 会長兼社長執行役員
(CEO & COO)

貝沼 由久



貝沼です。これから事業概況と経営戦略をご説明します。

- 上半期：全体としてマクロ経済減速と為替の影響を強く受けるも、多様化したポートフォリオが収益を下支えした。
- 通期：一部セクターを除き、**全般的な底入れ感あり**。
- 機械加工品：上半期のボールベアリング外販は**主にファンモーター向けで前年比大きく減速**。在庫調整は一巡し、**下半期から販売・生産数量は鮮明な回復基調へ**。1-3月は前年比で大きく伸びる。ロッドエンド・ファスナーは極めて堅調（**9四半期連続で前年同期比増益中**）。737MAXの減産の影響は限定的。

ボールベアリング外販 前年同期比	上半期平均（実績）	2020年1-3月平均（見込み）
	△22百万個（ファン△21、自動車+2）	+14百万個（ファン+3、自動車+6）

- 電子機器・ミツミ事業：上半期・下半期トータルで期初計画維持。下半期は家電を中心にモーターが回復へ。
- ユーシン事業：中国の**すさまじい自動車市場減速**の影響を受け、中国工場の稼働が大幅に低下。その他、欧州における減速がさらに事態を悪化させている。**今期は新機種立ち上げで一過性費用が発生**。ただし、中長期的にはユーシンの**次の柱として大きく成長へ**。
- M&Aは引き続きコア事業にフォーカス。株主還元も積極的に実施予定。
- 中長期の成長に向けて、ステルス製品の立ち上げ準備中。

2019/11/7

17

スライドでお示しの通り、自動車、工作機械、家電などマクロ経済減速の影響を強く受けましたが、スマホとゲームが下支えをしたというのが、この上半期の大きな景色と言ってよいかと思います。

ただ、一部のインダストリーを除いて回復の兆しが見えています。半導体は既にご案内の通りですが、ベアリングも底を打ったと考えています。

自動車関連の会社がどこも大きく収益を悪化させている中で、残念ながらユーシン事業も想定通りとはいかなかったということは、ご報告しなければなりません。中国に2工場あり、中国系、米系を中心とする様々な自動車メーカーに製品を納入していますが、すさまじい減速が起こり、稼働が大幅に低下しているのが実情です。これに加えて、ヨーロッパにおける新機種の立ち上げで一過性の費用が発生していますが、これは次の柱として、ユーシン事業は必ず大きく成長していくと確信しています。

M&Aは引き続きコア事業を中心に検討しており、株主還元も後述のとおり実施する予定です。

事業環境は底入れし、下半期は前年比増益へ

ポイント

- 機械加工品は2Qで底入れ、下半期は受注回復局面へ
ボールベアリング外販数量は、9月に194百万個達成。下半期は200百万個体制へ
- 電子機器はほぼ計画線、ミツミは上方修正
- ユーシンは中国・欧州を中心とする自動車市場の減速が引き続きマイナス要因
但し、来期はCSDを含めた5本柱と統合効果でボトムアウト
- 為替は1USD=¥108

(百万円)	2019年3月期 通期	2020年3月期計画			
		上半期	下半期	通期	前期比
売上高	884,723	483,898	516,102	1,000,000	+13.0%
営業利益	72,033	23,035	43,965	67,000	-7.0%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	60,142	16,213	35,787	52,000	-13.5%
基本的1株当たり 当期利益 (円)	143.90	39.06	86.20	125.26	-13.0%

2019/11/7

18

今期は増収減益で、売上高1兆円の1年前倒しを確実に達成したいと思います。スマホ、ゲームは思ったより好調で、これらが今期は牽引していくと見込んでいます。

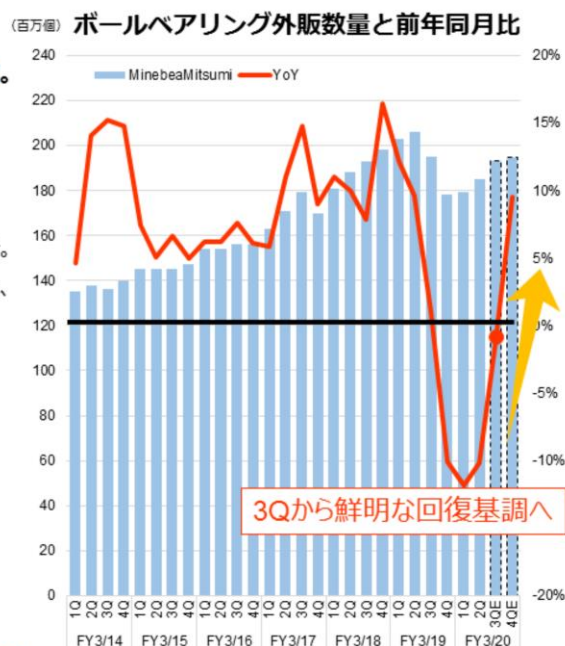
上半期の営業利益は230億円ということで、計画270億円に対して40億円の未達となりました。電子機器とミツミは計画以上に利益を出しましたが、ユーシンの一過性費用のほか、先にご説明しました自動車市場の低迷の影響を受けました。また、特にボールベアリングは高いシェアを持っていることもあり、世の中がスローダウンすると操業が落ちるため、その回復が我々の思ったより少し遅れて始まったことも、収益に影響しました。

下半期は計画に沿った着地になると予想しています。ゲームとスマホが強含みで、これは昨年とは全く違う景色です。昨年のスマホは生産に対して販売が伴ってきませんでしたが、今年は着実に販売が進んでいるというのが、私どもの現在の実感です。ベアリングも、5G、IoT関連の設備投資が強含みとなり、流通在庫も一掃されてきました。中国のエアコンのインバーター化に伴うベアリングの販売増加にも期待しています。

ボールベアリングは調整が終了し、YoY上昇局面へ

1 ボールベアリング事業

- 当初想定より遅れるも、**下半期から回復局面**。
来期は外販200百万個〜から始動。
- データセンター冷却ファン向けの回復が見えてきた。
- **自動車向けは、構造的數量増が続く。**
- 中国の新エネルギー車政策も大きな事業機会。
- エアコンは、インバーター化による省エネ化、静音化、長寿命化のメガトレンドを受ける。
- 中長期のピボット向けの減少分は、キャパシティに余力が生まれる。
⇒内販のキャパを外販に切り替えることで新工場を建設せずにASP改善へ。



2 航空機部品事業

- 収益性は順調に改善。
- 737MAXの減産の影響は限定的。

2019/11/7

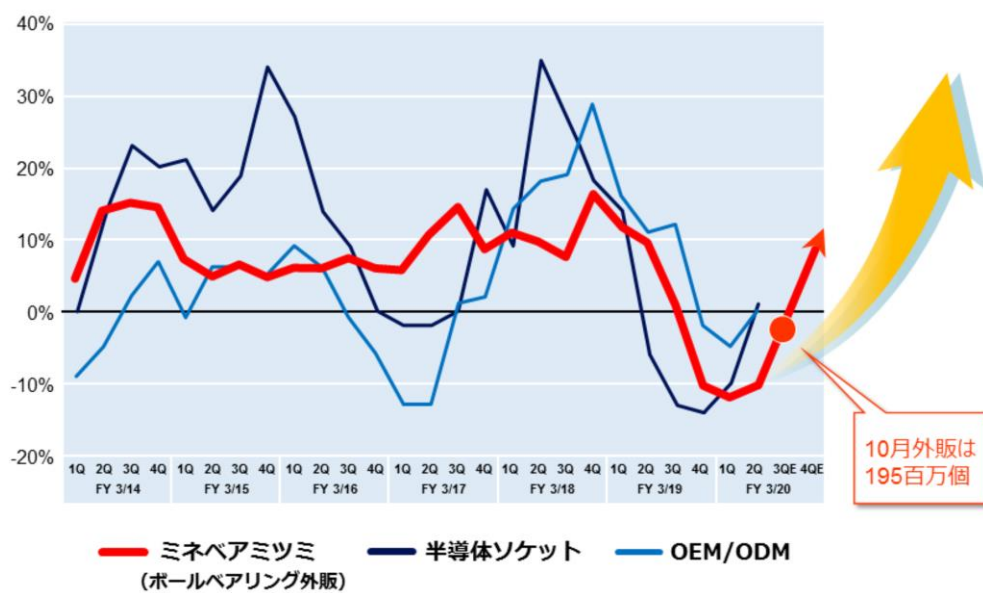
19

赤い線はボールベアリングの外販数量の前年同期比を示しています。

ご覧のとおり、上半期はぐっと下がっていますが、1Qで底を打ち、足元の単月ではかなり回復してきています。来年1月の外販は2億個という内示を頂いており、昨年の1月とは様変わりすると思います。外販数量では、去年は8月が2億個、9月が2億300万個、10月が1億9,900万個でした。今年は8月が1億7,900万個、9月が1億9,400万個、10月が1億9,500万個ということで、昨年と比べて8月時点で実に2,100万個もあった差が10月にはわずか400万個となりました。ベアリングは景気の指標といつも申し上げているように、一番後に落ちて一番先に上がってくると思っています。事実、今のところそのような傾向に沿った動きを示してしているため、かなり良い傾向が見えているのではないかと考えています。

HDDは2025年には年間2億台になるかもしれないという話がありますが、これに対しては内販のキャパシティを外販に振り向けることでマージンの改善を図りながら、新工場の建設については多少後ろ倒しにできると考えています。

景気循環は底を打ち回復局面へ



2019/11/7

20

ご参考までに、これはパブリックインフォメーションで他のインダストリーの前年対比を示しています。ベアリングは半導体とOEM/ODMと実に似た動きをしていて、それぞれ底を打ってきていると考えてよいのではないかと思います。

マクロ減速の影響を受けるも上半期は計画達成。 中長期の成長シナリオは不変。

1 モーター事業

- 上半期はHDDおよび一部OA・家電・車載向けを中心に減速も、下半期から増加に転じる。
- 車載向け新製品を引き続き市場投入。

2 LEDバックライト事業

- 期初計画通りの収益貢献。

3 センシングデバイス事業

- 安定的に収益に寄与。

2019/11/7

21

電子機器事業は、LEDバックライトは頑張っていますが、モーター事業が振るわないということです。ただ、ファンモーターはこれから回復を見込んでいます。

今期利益は計画線を維持

1 精密部品／電源／車載製品／半導体事業

- 世界経済減速の影響の中で、全体としてほぼ前年並みの売上・利益確保の見込み。

2 光デバイス事業

- 期初計画通り、今期は中国スマホを中心に前年比で大幅増収増益の見込み。
- 中長期でも技術革新で事業機会増大。
- OISの成長に積極的に対応する。

光デバイスの技術革新の例

- マルチカメラ化
- フロントカメラAF化
- レンズ大口径化
- 新方式採用等

3 機構部品事業

- 堅調な収益貢献。

2019/11/7

22

ミツミ事業では、ゲームは好調です。また光デバイスは、マルチカメラ化、フロントカメラAF化、レンズ大口径化、それから新方式というようなトレンドが出てきています。今まで私どもは、光デバイスに関してはあまり積極的には取りにいかないと公言してきましたが、LEDバックライトの数量も徐々に減っていくことを想定し、サブコア事業の中ではこの光デバイスに力を入れていきたいと思っています。

それから1つ嬉しいご報告として、アナログ半導体がかなり育ってきて、先月は4億円を超える利益を出す見込みであるとの速報を受けています。アナログ半導体は、8本槍のしんがりに控えているわけですが、8本槍のなかでの順位を上げていくであろうと考えています。

中国・欧州自動車市場の減速の影響で稼働減も 来期は5本柱で大きく成長。統合効果も発現へ

足元の状況と今後の成長ドライバー

- 中国・欧州自動車市場の減速の影響を大きく受け、稼働率が低下。
- CSDの新規立ち上げに伴う一過性費用が発生。中長期的にユーシン事業の柱として大きな成長を見込む。
- 歩留まり向上、固定費低減で、売上減の影響の最小化を図る。

来期以降、5本柱で大きく成長

- 1 CSD
- 2 フラッシュハンドル
- 3 E-Access製品 (E-Latch/E-Handle/E-Shifter等)
- 4 ミリ波レーダー
- 5 ホームロック



2019/11/7

23

ユーシン事業は、スライドに記載していますCSD、フラッシュハンドル、E-Access製品のほかホームロックも含めて電装化していきます。これはミネベアミツミの一番得意なところで、ここをきちんとやることによってユーシン事業を大きく成長させていきたいと思っています。すでに開発や立ち上げにおいて様々なサポートを開始しています。自動車の場合は、簡単には工程変更ができないということで少し時間がかかってしまっている上に、自動車市場の減速の影響を正面から受けてしまっていますが、今こそ次のチャンスに向けて相合によるシナジーを発揮する時だと思っています。

20/3期 配当

中間配当 未定 → **14** 円/株

期末配当
(予想) 未定 → 未定

20/3期の期末配当は、当期の業績を勘案した上で
連結配当性向20%程度を目処に決定の予定

(ご参考) 19/3期 配当

年間配当28円 (中間配当14円 期末配当14円)

2019/11/7

24

中間配当は14円とさせていただきました。今期の営業利益予想670億円に対して期末に14円の配当を実施した場合、連結配当性向は20%程度となり、いつもご案内しています17.5～22.5%の範囲に入ってくると考えています。

事業環境の変化の波を受けつつも、
積極的な株主還元を実施する方針に変化なし

- 1 150億円の自社株買いは、
1年間の枠で実施予定
- 2 設備投資を抑制し、
キャッシュを株主還元に充当

今後の成長に向けた主な能力増強投資、強靱化投資等は実施済み

今期の
設備投資

650 億円
(期初計画)



520 億円
(修正計画)

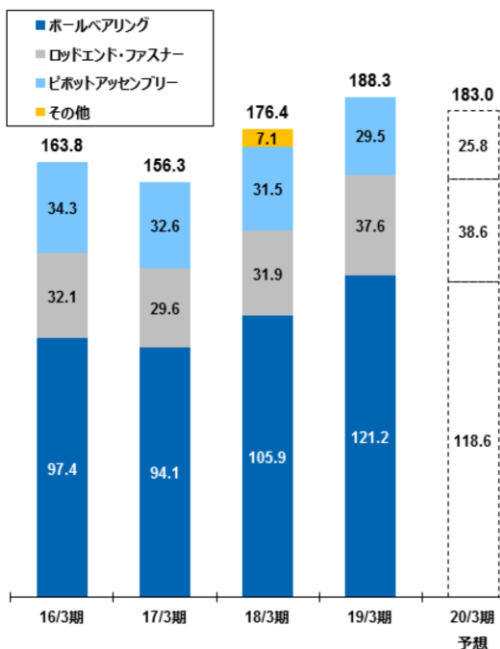
自社株買いは、1年間の枠を設定しています。様々な制約があって現在は実施できていないのが実情ですが、その制約が取れば株主還元の一環としてやっていきたいと思っています。



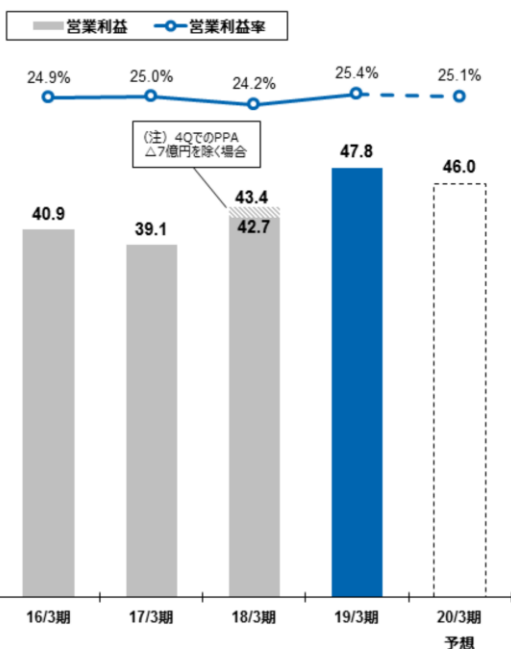
当資料で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベアミツミ株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

参考資料

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)

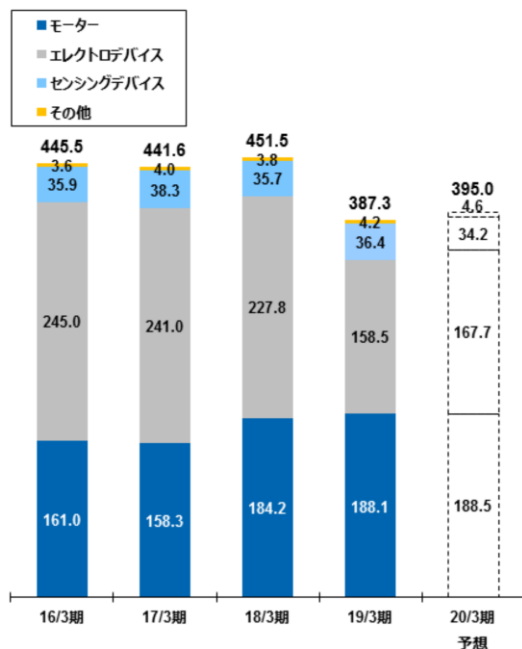


2019/11/7

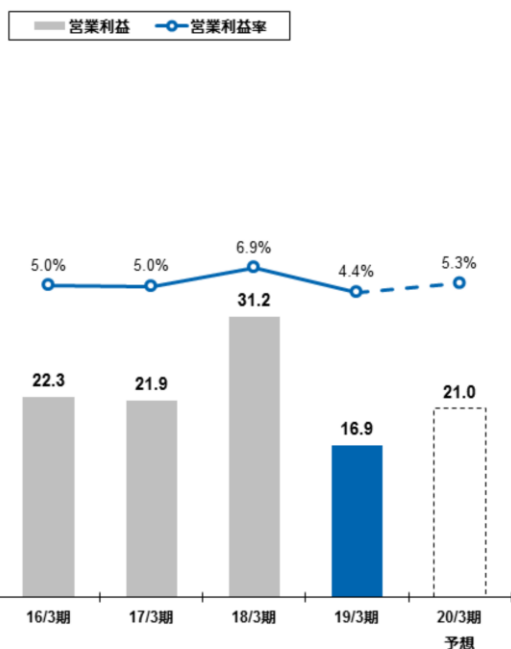
28

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



2019/11/7

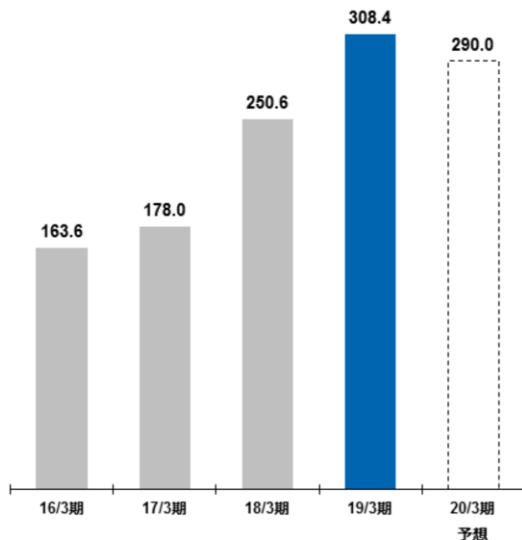
29

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

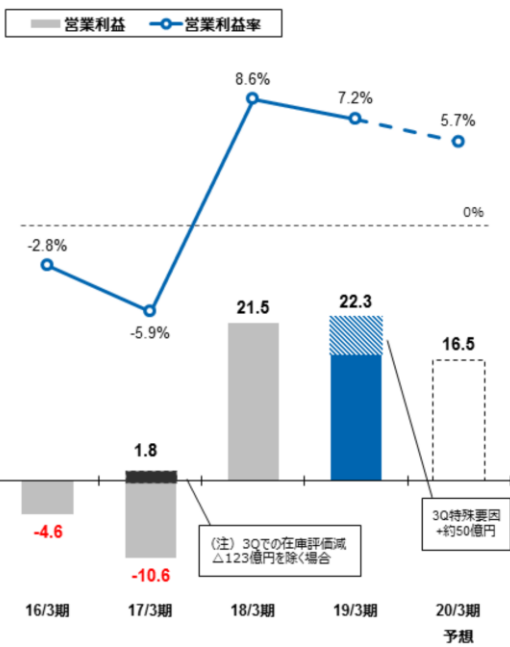
ミツミ事業セグメント

売上高、営業利益ともに、17/3期3Qまでは、経営統合前。
17/3期4Qは3ヶ月分の管理会計ベース。18/3期以前はJGAAP

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



2019/11/7

30

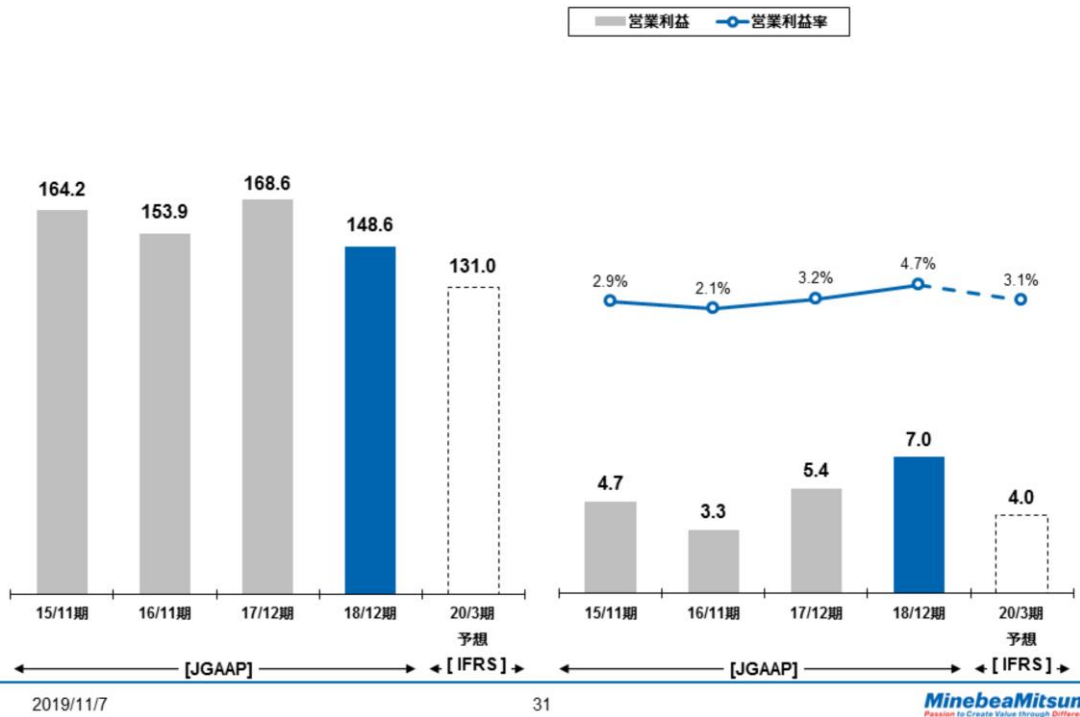
MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

ユーシン事業セグメント

決算期変更に伴い17/12期は13ヶ月決算
18/12期以前は経営統合前の参考値でJGAAP
20/3期は2019年1-3月の数値を含まず

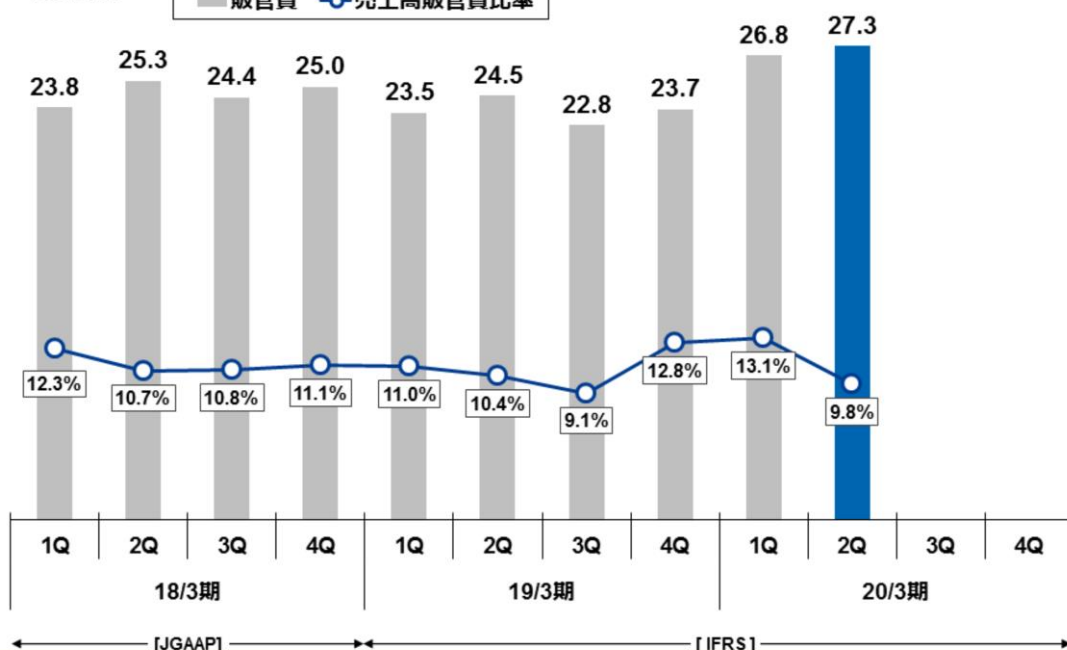
売上高 (10億円)

営業利益 (10億円)



(10億円)

■ 販管費 ● 売上高販管費比率



2019/11/7

32

MinebeaMitsumi
Precision to Create Value through Difference

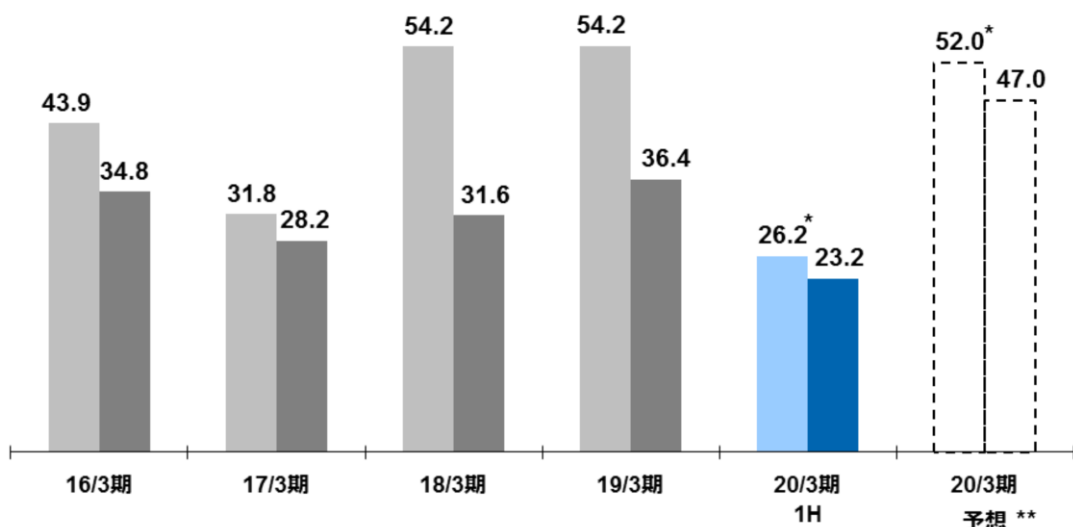
設備投資額・減価償却費

18/3期以前はJGAAP

(10億円)

■ 設備投資額

■ 減価償却費



* 設備投資額には、IFRS16号適用開始日に増加したリース資産は含まれておりません。
 ** 20/3期予想にはユージンの設備投資89億円、減価償却費45億円を含む

← [JGAAP] → ← [IFRS] →

2019/11/7

33

MinebeaMitsumi
 Passion to Create Value through Difference

ROIC (投下資本利益率)

ユーシン事業は19/3以前は経営統合前の参考値でJGAAP、全社には含まない。その他のセグメントは18/3期以前はJGAAP

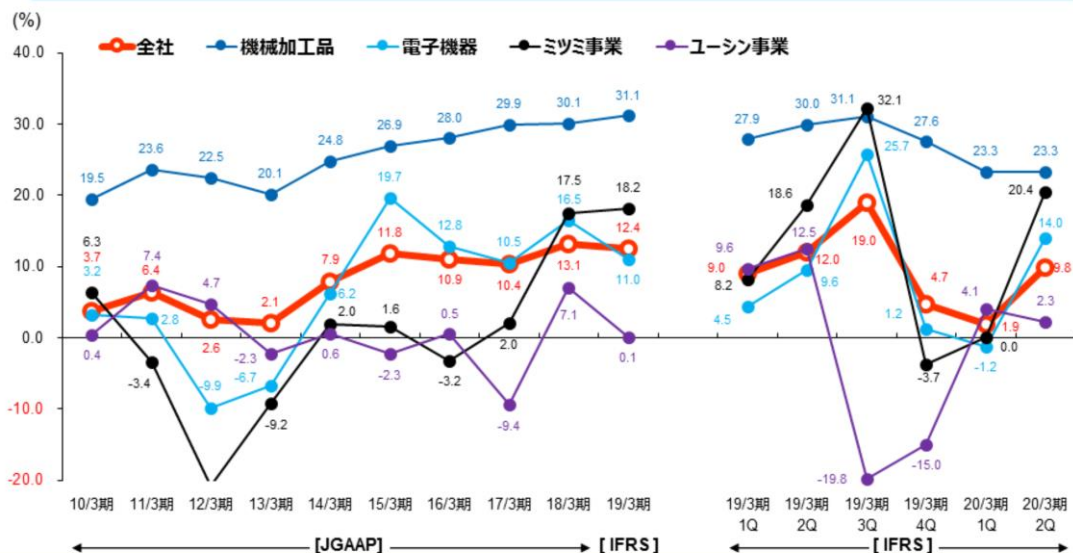
ミネバミツミ版
ROIC

=
NOPAT
投下資本

(営業利益+特別損益) × (1-税率)

(受取手形+売掛金+棚卸資産+固定資産-支払手形-買掛金)

セグメント別で管理できる事業資産（売上債権・債務、棚卸資産、固定資産）で算出



2019/11/7

34

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference